

## 「2024年中国・浙江大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学法学部1年 山口 航汰

## ① 学習成果

今回の派遣では、2週間という短い期間でありながら中国をはじめとして様々な国の人々と交流した。そこで感じたのは、国籍や言語の差があっても同じ人間であることには変わらないということだ。わたしたち日本人は特に相手が外国人だと会話する際に構えてしまいがちだが、いざ話してみると多少の不都合はあるもののコミュニケーションはとれるし冗談を言って笑いあうこともできるしと日本人と会話しているのと大差ないのだ。国際的政治対立が深まっていると言われていた昨今であるが、そうした対立や偏見を乗り越えて同じ人類として分かり合える世界を目指したいなと綺麗ごとながらも思った。また今回のプログラムが浙江大学の長期留学生と同じ授業に参加するものだったことや、授業以外のほとんどの時間が自由時間で自分で行動を決定できる（決定しなければならない）ものだったことから長期留学のお試しのようなものになっており、自分が長期留学に行った際の生活のイメージを具体的に想像できるようになり長期留学への意欲が非常に高まった。

## ② 海外での経験

様々な観光地を訪れたことはもちろん印象的だが、やはり一番思い出に残る経験は人々との交流だ。まずは浙江大学の学生との交流だ。今回のプログラムにはボランティアで我々のサポートをしてくれる現地の学生が何人かいた。彼らは日本に興味があり日本語も勉強していることからすぐに仲良くなり、連絡をとって一緒に遊びに行ったりご飯に行ったりした。地下鉄の乗り方すらわからなかったため彼らと共に行動できるのは非常に安心でまた楽しかった。他にも、道で話しかけてきた人が偶然にも浙江大学の修士の学生で仲良くなりカラオケや映画など中国の学生の遊び方を教えてもらったり特別な経験をたくさんさせてもらったりした。また、現地の人々との交流も印象的だった。飲食店や露店に行くと必然的に現地の人と交流することになるが、彼らは私の想像以上に優しく私の拙い中国語を必死に聞き取ろうとしてくれ、逆に私が聞き取れないときはゆっくり何回でも喋ってくれた。この優しさが私の中国語でコミュニケーションをとることへの抵抗感を払拭し自信を与えてくれた。毎日朝ごはんを食べに行っていたレストランや毎日フルーツを買っていた果物屋の店員さんが私の顔を覚えてくれ、親しく話しかけてくれたのもとても温かく嬉しかった（あまり聞き取れなかったが）。他にも街で話しかけられた人と仲良くなり家まで行って飼っている猫と遊んだり、杭州で地下アイドルをしている浙江大学の学生と写真をとってもらったりと中国人との交流だけでも楽しい思い出だらけである。しかし、中国人と同じくらい他の国の人とも交流した。というのも、授業が長期留学生と同じ授業だったことや、泊まっていたのが留学生用の寮だったことにより現地の学生というよりむしろ留学生と交流することが多かったからだ。同じクラスのベトナム人やインドネシア人、韓国人とはとても仲良くなり毎日授業の後は一緒に食堂に行っていた。他にも、夜中に大学構内のベンチに座っていたら偶然仲良くなったトルクメニスタン人と人生と恋愛について語り合ったり、寮の廊下で謎のドイツ人とフランス人と仲良くなったりと多国籍な友人との面白い思い出は尽きない。今回のプログラムを通してこのような国際交流の経験をできたのは非常によかった。

## ③ プログラム内容

基本的には平日の午前中に大学で中国語の授業があり、平日午後と休日は自由行動だった。週に二回程度午後にプログラムのイベントがあり、浙江大学の学生との交流ができ友達ができてよかった。休日が一日中自由なため高速鉄道に乗って遠出も可能で、私は友人と上海へ遊びに行った。大学の授業はレベル3の授業だったためすべて中国語で行われた。（レベル3以上はすべて中国語、レベル2以下は英語で授業が行われる）そうはいても、同じクラスの留学生も中国語勉強中のレベルであるため先生はゆっくり分かりやすく中国語を話してくれる。そのため中国語初級を一年間履修しただけの私でもかろうじて授業についていくことができた。2週間毎日授業で必死に中国語を聞き取っていたためリスニング能力がかなり上がったように思える。また授業では先生にあてられて先生やクラスメイトと中国語で話す機会が多かったため、スピーキング能力もかなり上達したように思える。帰国してから中国人留学生の友人と中国語で話していた時に、留学に行く前に比べて発音がかなり良くなったと言われた。これは本場の中国人の発音を2週間聞き続け、会話し

続けた成果に他ならないだろう。また、現地人と会話する機会が多かったおかげで教科書ではなかなか感覚が掴みづらい日常会話の表現を学べたのは留学で言語を学ぶ利点だなと感じた。

④ 進路への影響について

今回のプログラムを通して、国際交流への意欲が非常に高まった。そのため外務省や商社といった国際交流ができるような仕事をしたいという思いが強まった。まだ1回生ということもあり具体的な進路は固まっていない部分も多いが、国際交流ができたり国際理解の促進に関連があるような仕事をしたいという方針が固まっただけでも1回生のうちにこのような経験をできたのは非常に大きな糧になったと思う。